

地域社会との緊密な連携を築く

子どもたちのために地域と協力して行うPTA活動

小牧市立篠岡小学校PTA

1 はじめに

篠岡小学校は小牧市の東部丘陵地に位置し、篠岡地区の中では創立が最も古く、今年度で創立111年を迎える。校区には犬山市との境をなす尾張三山、大山川など、今も多くの自然環境を残している。そののどかな風景そのままに、地域の方も温かく児童や学校を見守ってくださり、「のびのび ほのぼの」という学校テーマそのままに、子どもたちもすなおに健やかに育っている。今年度の児童数は312人、全学年2学級、特別支援学級2学級、あわせて14学級の小牧市内では小規模な小学校である。PTAの活動を学校の近年の状況と、地域等との関わりを中心に以下に紹介する。



【小牧市立篠岡小学校】

2 研究への取り組み

(1) 研究のねらい

東部地区の他校にもみられる傾向が、児童数の減少である。今後数年にわたり児童数の減少が続き、令和6年度には6学年中、3学年が1学級に、令和9年度には全学年が1学級になる見通しである。小規模な学校は、穏やかで優しい校風を維持しやすく指導が行き届きやすいという良い点がある反面、学校の教育活動が今の形では成り立たなくなることも考えられる。また、児童数の減少はPTA会員数の減少となり、従来通りのPTA活動を、そのままの形で維持していくことは難しくなってくる事が予想される。そこで、児童数、PTA会員数の減少に対応したPTAのあり方を探り、見直しを行うことにした。

(2) 研究の方向性

PTA活動のうちこれまで行っていた、「子どもたちの安全や学校環境の整備にかかわる活動」と「子どもたちに豊かな体験を提供する活動」を、今後も維持していくという方針のもと、次の2つの方向性を定めてPTA活動の見直しを行った。

- ① PTA会員数に合うよう、組織と活動のスリム化を行う。
- ② 地域等学校外の組織との連携を進める。

3 実践活動の内容

(1) PTA活動の見直し

① 組織のスリム化

P T A会員数の減少に伴うP T A委員一人一人の負担増、委員の選出に苦慮する地区の増加に対応するため、平成30年度に規約細則の見直しを行い地区委員の数を減らした。規約細則の見直しにあたっては、校長・教頭先生の助言のもと、役員O Bの意見も聞きながら現役員を中心に行った。具体的な改正点は、以前は各地区より児童数10名につき1名の委員を選んでいたところを、13名につき1名の選出にした。これにより地区ごとに選出しなければならない委員の数が減り、各地区の委員選出の負担はかなり減った。地区委員数は30年度33名であったのが、令和元年度は25名になった。

また、委員数の8名減により、4つあった委員会（環境整備委員会、生活安全委員会、家庭教育委員会、広報委員会）のうち、環境整備委員会と生活安全委員会を1つにまとめ環境保健委員会とし、委員会数を3つにした。

② 活動のスリム化

P T A委員数の削減に伴い以下のように活動を精選した。

- ・ P T A花壇整備の仕事をなくす（花壇は低木のスペースに）
- ・ 給食試食会を家庭教育講座の1つにし、家庭教育委員会の企画講座を減らした。
- ・ 年3回の資源回収を2回にした。
- ・ プール開放当番を取りやめにした。
- ・ P T A広報誌を簡略にした。

これにより、P T A委員数を減らした以上の負担軽減となった。また、月1回程度のP T A全委員会の時間も短縮させることができた。

(2) 地域の他団体との連携協力

① うきうきフェスティバル1

（外部講師の活用）

うきうきフェスティバルは20年以上続くP T A主催の体験講座である。P T A委員が講座を企画し（令和元年度は14講座）、全校の子どもたちが親子で参加する。講座にはバルーンアート、ハーブ石けんなど物づくり系のもの、シ



【うきうきフェスティバル】

ョートテニス、カローリングなど体を使って行う運動系のものなど多彩である。令和元年度より全ての講座で外部の講師を依頼することにした。依頼した講師は地域の教室等を開いている専門の方、おやじの会のみなさんや地域コーディネーター、中学校の先生、地域スポーツの指導者等である。それにより、子どもたちはより専門の方からの指導のもと活動できるとともに、P T A委員の仕事は、講師との連絡調

整、必要物品の購入などに絞られ、負担を減らすことにつながった。

② うきうきフェスティバル2（Sクルーの参加）

Sクルーは篠岡中学校の生徒のボランティアで、小学校の他、地域の多くの要請を受けて活動しており、活動ぶりは高評価を受けている。うきうきフェスティバル当日はたくさんのSクルーが小学校を訪れ、講座ごとにお手伝いをしてくれる。転入生以外のSクルーはすべて篠岡小学校の卒業生であり、懐かしい母校を訪れ、後輩たちのために精力的に力を発揮する。うきうきフェスティバルへのSクルーの応援は毎年卒業生に引き継がれている。



【Sクルーの活躍】

③ P T A O の日立哨

（地域ボランティアとの連携）

P T A O の日立哨は、全 P T A 会員による活動で、毎月 10 日・20 日などの交通事故 0 の日にあわせて行っている。当番の保護者が、集合場所や通学路の危険箇所立ち、子どもたちの集合や登校の様子を見守ったり安全のための声かけをしたりする。校区には地域の通学路パトロールボランティアの方が多数おり、P T A だけでは手が回らないところにボランティアさんが立ってくださるなど、協力して子どもたちの登下校の安全を支えている。



【P T A O の日立哨】

④ 通学路点検（交通安全推進協議会との連携）

通学路点検は P T A 委員の活動で、年 1 回、1 学期の学校公開日の下校時に行っている。学校公開日の後、子どもたちと一緒に通学路を歩いて下校し、通学路の危険箇所を点検する。その後点検結果を記録して学校に提出し、学校の指導に生かしてもらおう。通学路の状況等には学校や保護者では改善



【交通安全推進協議会】

できないことも多くあり、地域の力に頼らなければならない。そこで学校・P T A 役員・区長さん・地区の交通委員の会（交通安全推進協議会）に点検結果を伝え、挙げた危険箇所などへの対応を話し合う。

その後、区長さんたちによる素早い対応で改善を図っていただいている。

⑤ あいさつ運動（小中学校の連携）

各学期に1回ずつ、年3回のあいさつ運動を行っている。あいさつ運動の特徴は篠岡小学校と篠岡中学校が合同で行うことである。あいさつ運動期間中は小中学校正門や通学路に篠岡小中のPTA・それぞれの児童生徒・先生方が立ち、登校する小中学生にあいさつを呼びかける。小中合同のあいさつ運動は児童生徒の朝のあいさつの習慣形成に役立っている。



【小中合同あいさつ運動】

⑥ 地域協議会の活動および連携

篠岡小学校区は市内でも早くから地域協議会が立ち上がった地区である。地域協議会が行う夏の行事やクリスマス会、もちつき大会、地域防災訓練など、子どもたちに関わりの深い活動が定着している。PTAと地域協議会の連携の1つとして、これまでPTAが企画運営していた小学校の運動会のPTA種目を、昨年度から「地域・PTA種目」として、地域協議会に運営をしていただくことにした。PTAは参加者への参加賞配りを行った。たくさんの地域や保護者の方が参加した綱引きは例年通りの盛り上がりを見せるとともに、PTAの負担を減らすことにもつながった。



【地域・PTA種目綱引き】

4 おわりに

委員や役員としてPTA活動に携わることにより、学校で子どもたちの笑顔を見る機会も増え充実感を味わうことができる。また、保護者や担任以外の先生とのつながりもできるなど、良い点がいろいろとある。しかし同時に自分の仕事・家事・育児・他団体の係などとの両立は負担でもある。その中、今後、児童数・PTA会員数がどんどん減っていく篠岡地区では、子どもたちの健やかな成長という共通の目標をもつ、小学校・中学校・PTA・地域協議会・子ども会・ジュニアスポーツの団体などがうまく役割の分担と棲み分けを図っていく必要を感じている。

今後も学校・PTAでアイデアを出し合い、よりよい活動を探っていく必要があると感じている。そのために他校のPTAの皆さんとの情報共有に努め、よりより学校PTAの姿を探っていきたい。